

令和 3 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000054		
法人名	株式会社メイト		
事業所名	ホームとよまね2号館		
所在地	岩手県下閉伊郡山田町豊間根2-111-3		
自己評価作成日	令和4年1月4日	評価結果市町村受理日	令和4年5月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様本位の生活実現を目標に、自分らしく生活できるようスタッフ一同サポートしています。地域産直への買い物や、散歩、入浴等、利用者様のペースに合わせ支援することをモットーとしております。保育園・幼稚園との交流や、地域の皆さんとの交流を行っていましたが、コロナ禍の中で、交流も自粛状態にありました。また、3か月に1度の歌と踊りの慰問も中止状態にあります。令和3年11月より地域の交流を徐々に再開し、幼稚園、小学校との交流、カラオケ同好会の来訪などを行いました。コロナ禍の中であっても職員が行事等を積極的に企画し、敬老会、運動会、ドライブ等の外出を行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、「地域密着が一番」との思いで、地域との関係を作り生活の中で利用者の力を発揮しようとしている。利用者が作った雑巾などを保育園に提供することを継続しており、地域の方からの声掛けで食用の菊を摘みに出掛けたり、栗拾いに出掛けたりしている。コロナ禍で、買い物に行けなくなり、地域行事に参加できない状態であるが、制約があるなか感染予防に注意を払い、大船渡市の榎館や川井やまびこ館にドライブに出掛けるなど利用者が楽しめるように行事を企画し取り組んでいる。食事は、三食とも職員と調理を行っている。食材切りや盛り付け、テーブル拭きなど入居者個々の力を活かしながら、食を楽しみ、入居者の力を発揮させようとする姿が垣間見られる。今後とも継続して実施されることを期待したい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年4月14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の目に見える所に理念を掲示している。又、毎月の職員会議の時に唱和し、共有している。理念に関する研修会を実施し理解を深めている。	理念や方針は、開設当初に経営者と職員が話し合い作り上げ、理念と職員の意見を取り入れたケア目標を作成し介護支援に取り組んでいる。また、理念に関する研修会を年に1回開催し、認知症の理解を深め、声掛けなど接する上で大切なことを振り返り話し合っている。	職員間で定期的にケア目標を話し合い、見直しすることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	R2年2月よりコロナ感染予防の為、ボランティア、保育園、小学校等の交流を自粛していた。R3年11月より徐々に、カラオケ同好会、小学校等との交流を再開している。	コロナ禍の行動制限緩和を受け、小学校や幼稚園との交流、ボランティアの受け入れのほか、農家の案内による食用菊の摘み取り、栗拾いなど、地域住民との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト事業に積極的に参加し、認知症サポーター養成研修に、スタッフの派遣も行っている。地域の中で、認知症を対象とした施設として知ってもらうよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な機関の代表が推進委員として参加され、頂いた意見の中で、すぐにできる事から取り組みサービス向上に努めている。	委員は、家族代表と地区の方々、民生児童委員、保育園長、地域包括支援センター職員などで構成されている。系列外のグループホーム管理者が委員として参加していることは特筆される。県内のコロナ禍の感染状況等を確認しながら、文書開催又は集合開催での何れかで行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域ケア会議などで情報交換を行いながら、協力関係の構築に努めている。	文書で事業所の様子を詳しく報告し、コロナ禍での取り組みを相談したりと、情報の提供や共有に努めている。また、地域包括支援センターと連携し経済的虐待が疑われる高齢者に入居対応している。行政担当者と事業所は、問題解決に向けて一緒に取り組む姿勢を持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険の基準において禁止の対象となる具体的な行為を研修し、身体拘束をしないケアに努めている。身体拘束権利擁護委員会を設置し、拘束のないケアについて強化し実践している。排除宣言をしており、拘束のないケアを実践している。	日中の玄関の施錠については、「身体拘束はしない」と明確に言い切っている。法人内に身体拘束権利擁護委員会を設置し、3か月に1回合同で委員会を行い、併せて研修も行っている。各事業所のヒヤリハット・事故状況やスピーチロックなど介護の場面を振り返り、実践に反映している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ホームとよまね2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法で定義されている5つの虐待に関して確認し、防止に努めている。身体拘束権利擁護委員会において、声掛けの言葉にも注意をするよう研修し、実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内職員研修を実施し、全員で学ぶ機会を設けている。又、生活支援員の毎月の訪問を通じて、日常生活自立支援事業を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすい言葉で、説明を行い、契約内容を確認していただいている。契約時に予想される生活上の事や、将来の退所についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に管理者との面談のほか、利用者の担当職員を設けることにより、気軽にコミュニケーションがとれるよう心掛けている。運営推進会議への出席もお願いしている。	殆どどの入居者は、言葉で自由に意思を伝えることの出来る方々である。日常会話の中で好きな食べ物を聞き、メニューに取り入れたり、思いをケアプランに反映している。家族とは、支払いや通院結果を報告する際に、意見・要望などを受けることが有り、コロナ禍での面会でも反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議とカンファレンスで発言の機会を設けることと、毎日の申し送りの時間をしっかりとることにより、より多く職員の意見を聞きだすよう努めている。	管理者と職員間で、日々の入居者情報を共有しており、毎月の職員会議で協議した内容は業務に反映している。また、職員の提案で老朽化した器具を取り換えたり、ユーチューブをTVで視聴できるように器具を取り付けたりしている。経営者や管理者は、現場職員と話し合いながら支援の仕方を調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に応じた給与・待遇ができるよう職場環境・条件を整備し、実施している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ホームとよまね2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修とともに、外部研修の機会を均等に設けるように努めている。資格試験時の勤務優遇など、配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町のグループホームの運営推進会議には、お互いに参加し、情報交換をしている。グループホーム協会の定例会、研修会にも参加し、情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用しながら、ご本人の思いを傾聴し、思いを受け入れ、行動する関係作りに努めている。安心ある生活が提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用しながら、ご家族の思いの聞き取りを行っている。その後の面会時にも不安や要望を聞き、担当職員を設けるなどし、円滑にコミュニケーションを図れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを傾聴し、必要としている支援を見極め、その都度柔軟に対応するよう努めている。特に生活歴や趣味・嗜好・生活習慣等を伺い、提案に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活全般を利用者と一緒に行い、様々な生活の場面を一緒に過ごせるようにしています。調理や掃除、縫物など個々の能力に合わせて家事などの手伝いを促し、利用者のペースに職員が合わせて、安心して生活していただけるよう配慮している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ホームとよまね2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り来所していただき、面談していただいている。職員からも様子を伝え、支援経過を送付し、日々の暮らしを知って頂いている。行事等の連絡を行い一緒に参加し共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら家への訪問や墓参り、近所にいた方の訪問など関係がとぎれないよう、支援に努めている。	入居時の情報や入居中の会話のなかで、家族・本人から自宅での人や場所との関わりを聞き支援に活かしている。ドライブで自宅近くを通った時には馴染みの店を聞き、食べ物を買ったりしている。また、継続受診しているかかりつけ医で知人に会うこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グルーピング作りを行い、良い関係が保たれる利用者同士を近くの席に配置するなど、関わり合えるよう努めている。又、必要に応じて職員が会話の橋渡しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院時、退所後もご家族が相談できるよう努めている。情報提供や他施設への連絡調整も必要に応じ行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のお話しをする中で希望や意向を聞き出し、日誌に記入し情報共有に努めている。実現できることや、実現に向けた支援に努めている。	職員全員が一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、ケアプランに記述し実行するようにしている。把握が困難な場合には、うなずく動作や表情などから心情を汲み取り対応している。意向の内容によっては、日誌を活用して職員間で情報を共有したり、カンファレンスで話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを用いて少しずつ、ご本人や家族、面会に来られる方々から情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日誌等の記録をもとに、現状把握に努めている。		

令和 3 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議とカンファレンスで意見を出し合い、ご家族の訪問時に希望や意向を聞き取り、計画に反映しています。又、日々の申し送りや、毎日の実施モニタリングで現状把握に努め新たなニーズ発見に努めている。	ケアマネと居室担当者の協議や職員会議での検討を経てケアプランの原案を作成し、本人・家族の意向をケアプランに盛り込んで具体化している。ケアプランの実施状況は、チェックシートで毎日確認し、モニタリング表で毎月まとめている。モニタリングに基づいた計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の観察記録、毎日の業務日誌を通し、職員間の情報共有を図っている。ホワイトボードも利用し情報共有し、良いアイデアはすぐに実践できるよう、常に話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズが生まれた場合は、柔軟に対応できるよう、職員の配置や業務の見直しを行い、利用者の実情に合わせた支援が実施できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の外出の意向に出来る限り応じ、積極的に地域行事参加などに努め、地域の一員として生活を楽しめるよう支援している。近隣の保育園、幼稚園、学校との交流や、地域のカラオケ愛好会が毎月訪問している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人又はご家族の同意の元に主治医の所へ通院し、必要時スタッフが同行するなど主治医との関係を密に保つように努めている。	全入居者が入居前のかかりつけ医を継続利用している。受診は、基本的に家族対応としているが、コロナ禍のため、職員が全入居者の受診に同行している。かかりつけ医とは、話し合いや情報のやり取りを通して関係を築いている。受診結果は、その都度電話やLINEで家族に報告し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師はいないが、各利用者のかかりつけ医院の看護師や、協力医療機関と連携を図り、適切な助言や受診が受けられるよう支援しています。		

令和 3 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は、医療相談室と連携を図りながら、情報交換や相談をし、円滑に行えるよう努めている。地域ケア会議出席により、普段から関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設内で出来る事を関係医療機関、職員で話し合い、ご家族にも伝えている。緊急時の対応をご家族と確認し合い、終末期に向けてどこまでできるかをキーワードに、対応できる範囲で実施している。	訪問診療が無く、最後まで看取り対応ができない状況にある。重度化した場合や終末期の在り方について、入居前に家族に説明し了承を得ている。急変や事故発生時の備え、応急手当や初期対応の訓練等を行っており、入居者本人に変化が有る度に家族に状態を報告している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や、初期対応の訓練、マニュアルの確認等を行い定期的研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応の避難誘導訓練を定期的実施し、近隣の住民へ避難誘導を依頼し、連携に努めている。水害についての細やかなマニュアルを作成し、速やかに避難できるよう努めている。	火災避難訓練は、日中と夜間想定で年に2回実施しており、避難場所での見守りに地域の方の協力を得ている。更に、年に1回水害災害避難訓練を行っている。食事に関する災害備蓄は、施設外の避難者にも対応できる物を備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思いや行動を受け止め、否定することなく、寄り添って見守りするよう努めている。居室入り口のにれんを掛けたり、プライバシーにも気を配っている。	その人らしさ、思いを支えるケアを目標に、前歴などに配慮しながら、声掛けには、地域の言葉遣いや目線を合わせている。地元の言葉を使い柔らかい口調で話すなど、言葉や語調など入居者に配慮した対応を行っている。専門委員会では、具体的事例を用いスピーチロックの防止についても話し合い、事業所全体で改善に向けた取り組みを行っている。	

令和 3 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し、思いを受け入れる姿勢を利用者に向け、利用者の希望や意見を制限しないような雰囲気作りに努めている。本人の思いや希望を実現できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など、大まかなスケジュールはあるが、入浴は希望時間に合わせている。買い物の希望にも、随時対応している。利用者のペースに合わせた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時はスタッフが一緒に服を選び、楽しく外出出来るようし支援している。美容室はホームへ訪問してもらい、3か月に1回程度のサイクルでカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の商店や産直へ利用者とともにいき、季節の食材や食べたい物を選んでもらっている。季節感のある食事を提供している。食事の盛り付けや、茶碗拭き、茶碗洗いなど手伝ってもらっている。お団子やホットケーキ作りなども一緒にしている。	食材切りや盛り付け、後片付けの茶碗洗いやテーブル拭きなど、利用者個々の力を活かしながら、三食とも職員と一緒に調理を行っている。メニューでは、正月はお餅や雑煮、端午の節句は柏餅など、季節感のあるものを取り入れており、ドライブで外食を楽しむことも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を個別に記録しチェックし、栄養状態、水分量が十分に摂取できるよう把握し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所へ誘導し、歯磨きうがいをしている。夕食後は入れ歯を預かり薬剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録票をもとに、排泄誘導の間隔を把握し定期的に促しや交換を実施している。認知により排便のふき取り介助が必要な方にも、自尊心を傷つけないよう注意しながら実施している。見守り確認し、必要に応じ、尿取りパット交換を促している。	入居者は、トイレに行きたい時に行っているが、1名の方だけは時間で誘導し、もう1名の方は夜間オムツ使用となっている。立ち上がりが困難な方もいるが、排泄チェック表で習慣やパターンを把握して対応している。本人の身体能力に合わせた支援を心掛けている。	

令和 3 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表で摂水量を把握し、少ない利用者には促しを実施している。毎朝の体操を実施し運動不足の解消、毎昼ヨーグルトを摂取している。個別に歩行運動等、便秘解消に取り組んでいる。随時処方された下剤も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の予定表もとつき声掛けするが、本人の希望で時間や日程をずらし、利用者のペースで入浴できるように支援している。入浴剤の使用や季節にあった(ゆず湯、菖蒲湯等)で入浴を楽しんで頂いている。	入浴は月曜から土曜のうち週2回とし、入浴時間は行事やドライブ、外出との関連で午前又は午後に行っている。本人・家族から入浴習慣や好みを聞いており、それに配慮して対応している。また、入浴日でも入りたくない場合には翌日に替えるなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活にメリハリを持たせるために、大まかな施設の生活時間は定めてあるが、起床時間や朝食の時間は個々の生活習慣に合わせ柔軟に対応できるよう、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の内容を添付し、服用時にスタッフが手渡しで服薬確認を努めている。処方が変わった場合は、日誌にて周知し、情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中から役割を見つけ出し実践している。個々の得意なことや、心身の状況によって差はあるものの、利用者それぞれの役割が決まってきた。役割をこなすことで充実感を得ている。ボランティアによる歌や踊り、園児訪問を楽しみにされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物や、ドライブの他に、季節の行事として外食ドライブを実施している。地域で行われる行事への参加も行い、施設周辺の散歩も自由に行えるよう、支援している。	天気の良い日には、庭の畑で作業をしたり、近くにある系列のグループホームに出掛けて交流したり、戸外に出る機会を作り支援している。コロナ禍で買い物に行けなくなり、地域行事にも参加できない状態だが、感染状況に注意しながら大船渡市の椿館や川井やまびこ館にドライブで出掛けている。	

令和 3 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて必要に応じて支援してる。買い物支援を行い、ご本人、ご家族の希望に応じてお預かりしているお金を渡し、自由に使えるなどの支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が、電話を希望するときは、ご家族了承のうえで電話の取次ぎをしている。又、荷物等が送られたときは、ご家族へ電話連絡をするようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓を利用し、施設に自然光が入るよう工夫している。又、季節を感じられるような掲示物や、季節の花を置くなどし、落ち着いた雰囲気作りに努めている。冬には加湿器を利用し、風邪の予防ができるよう努めている。	共用空間は、床暖房を設置しエアコンで空調管理している。リビングにはゆったり休めるソファや椅子が置かれている。壁面には、入居者と職員で作った季節感のある貼り絵を飾っており、庭の花や季節の花も活けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席順は気のあった利用者同士を近くに配置している。共有スペースでは選んで座れる空間を設けると共に、利用者が自由にくつろげるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り自宅ですべての馴染みの物を持って来てもらい、自分の部屋と認識でき、安心できる居室となるよう、心掛けている。行事の写真や作った工作なども掲示している。	居室の暖房にパネルヒーターを設置し、ベッドとハンガーラック、筆筒を置いている。入居時には、本人・家族と相談しながらレイアウトを決めている。仏壇や昔のTVを持ち込んでおり、壁には誕生会などで撮影した写真や個人で作った毎月のカレンダーを貼っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がない作りで自由に移動できると共に、居室とトイレドアの色を変えて認識しやすくしている。転倒の危険なく、安全に自立生活が送れるよう努めている。		